

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7

TEL 03(3404)7661

E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com

友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

広がる笑顔、上がる歓声天高く

2014健康まつり開催

健康まつりが、「えんく広げよう」繋がり、住み慣れた地域で暮らし続けたい」をテーマに、10月18日代々木病院にて開催されました。

オープニングでは八鼓会の太鼓がお祭りの開始を告げ、一ノ瀬義雄実行委員長、代々木健康友の会の布施仁会長、千駄ヶ谷大通り商店街振興組合の牛久保英昭理事長が挨拶しました。

模擬店

飲食系の模擬店では海鮮塩焼きそば、たこ焼き、じゃがバター、牛すじ煮込み、おでん、フランクフルト、炊き込みご飯、中華まん、玉こんにゃく、助六寿司、新潟名産展、手作りお菓子、産直野菜とフルーシなどのお店がお客さんでにぎわう一方、コーヒーやジュースを楽しんだり、点茶席でお茶の作法などを教わる人もいました。

さらに、松平晃氏がトランペットで「ケサラ」や「銀座カンカン娘」、「東京ブギウギ」などを演奏しお祭りをいっそう盛り上げました。

子ども広場

スーパーボールすくい、ダーツ、ポップコーン、綿あめ、射的、ボウリングなどに、昨年以上に地域の子供もたくさん



40人が集った吉良よし子氏の記念講演。明快でわかりやすい内容で、「元気」と「希望」をもらいました

「子ども広場」は、飲食以外では、手作り小物やフリーマーケット、俳句や習字の展示、バザー、宗形護氏の油絵

イベント会場ではハーフトリートコーラスやパンブーの合唱の後、記念講演が開始。日本共産党の吉良よし子参議院議員は、憲法9条や憲法25条、国会情勢などについて語り、「年金減らし、ベッドを無くして追い出す。これは国の責任放棄」「社会保障を切り捨てるのに消費税をあげて

「吉良よし子氏の講演」は、憲法9条や憲法25条、国会情勢などについて語り、「年金減らし、ベッドを無くして追い出す。これは国の責任放棄」「社会保障を切り捨てるのに消費税をあげて

「吉良よし子氏の講演」は、憲法9条や憲法25条、国会情勢などについて語り、「年金減らし、ベッドを無くして追い出す。これは国の責任放棄」「社会保障を切り捨てるのに消費税をあげて

「吉良よし子氏の講演」は、憲法9条や憲法25条、国会情勢などについて語り、「年金減らし、ベッドを無くして追い出す。これは国の責任放棄」「社会保障を切り捨てるのに消費税をあげて



今年も大人気のスーパーボールすくい みんなすごい集中力でした

「吉良よし子氏の講演」は、憲法9条や憲法25条、国会情勢などについて語り、「年金減らし、ベッドを無くして追い出す。これは国の責任放棄」「社会保障を切り捨てるのに消費税をあげて

「吉良よし子氏の講演」は、憲法9条や憲法25条、国会情勢などについて語り、「年金減らし、ベッドを無くして追い出す。これは国の責任放棄」「社会保障を切り捨てるのに消費税をあげて

「吉良よし子氏の講演」は、憲法9条や憲法25条、国会情勢などについて語り、「年金減らし、ベッドを無くして追い出す。これは国の責任放棄」「社会保障を切り捨てるのに消費税をあげて

「吉良よし子氏の講演」は、憲法9条や憲法25条、国会情勢などについて語り、「年金減らし、ベッドを無くして追い出す。これは国の責任放棄」「社会保障を切り捨てるのに消費税をあげて



患者さんも「おはやし」に参加



トランペットで盛り上げた松平晃氏



一生懸命焼きそばを作りました



オープニングで挨拶する牛久保理事長(右、千駄ヶ谷大通り商店街振興組合)。写真左は一ノ瀬副院長(代々木病院)

先日メガネの調整のためお店を訪ねた。何組かの客が店員と話をしている。静かな中に和やかさを感じる空間だった▼メガネを預けてブラブラと店内を歩く。強い近視なのでほとんど見えなもののだけども、レトロなメガネ売り場の前で大きな声が聞こえてきた。若い女性店員に「昔の日本はね、そうか君はその時は生まれていないものね」と高年齢の男性。話の主題はわからないが、いかに今の若い人がダメかを「君に言っても仕方ないけどね」を織り交ぜつつ語り続けている▼なぜメガネ屋で商品を前にその話題なのかは想像の外だ。しかしふと考えた。男性は当然にして大切なことに気づいていないのではないか▼それは前にいる女性とは年齢も経験も違うけれど、「今」という同じ時代に生き、同じ空気を吸い、同じ場所にいるということを▼先月福島に行き、まだ戻れない町があることを再認識した。原発再稼働を許してはならない。安全神話にだまされた人と、原発があることが「普通」の世の中に生まれた人。同じ時代を生きている者として、年代を越えて一緒に考え行動していくところ大切と思う。(み)

千駄の萱

調整のためお店を訪ねた。何組かの客が店員と話をしている。静かな中に和やかさを感じる空間だった▼メガネを預けてブラブラと店内を歩く。強い近視なのでほとんど見えなもののだけども、レトロなメガネ売り場の前で大きな声が聞こえてきた。若い女性店員に「昔の日本はね、そうか君はその時は生まれていないものね」と高年齢の男性。話の主題はわからないが、いかに今の若い人がダメかを「君に言っても仕方ないけどね」を織り交ぜつつ語り続けている▼なぜメガネ屋で商品を前にその話題なのかは想像の外だ。しかしふと考えた。男性は当然にして大切なことに気づいていないのではないか▼それは前にいる女性とは年齢も経験も違うけれど、「今」という同じ時代に生き、同じ空気を吸い、同じ場所にいるということを▼先月福島に行き、まだ戻れない町があることを再認識した。原発再稼働を許してはならない。安全神話にだまされた人と、原発があることが「普通」の世の中に生まれた人。同じ時代を生きている者として、年代を越えて一緒に考え行動していくところ大切と思う。(み)